

酒々井町

郷土研究会会報

第145号

平成24年7月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

郷土研誕生秘話

岡田利光

昭和46年(1971)8月の暑い日、酒々井町文化財調査班の一行が宅地造成中の成田ニュータウン古墳発掘を見学の帰り、成田市船形の酒店裏で手を洗おうとして、壊れて汚れた古鐘が目にとまった。

一行5人は岩橋の相京氏、沖田氏、加川氏、小坂氏、高橋氏で、この鐘は「以宝亀5年(774)肥前国佐嘉郡椅寺之鐘」と陽刻されており、千二百年前のもので我が国4番目の奈良朝在銘古鐘であることが後に判明し、昭和53年国重要文化財に指定された。

肥前(佐賀県)の名



古鐘発見については『成田史談』22号に詳しく書かれています

鐘がどうして下総印旛に来たかは誰も判らない。そこで、私は次のように推察してみました。

『初代千葉常将から5代後の千葉介頼胤は、1274年の蒙古襲来により、幕府の命令で九州に出向き蒙古軍と戦い負傷し、翌年の建治2年(1275)没した。長子の宗胤も急遽九州に赴いて戦うも死亡する(九州千葉氏の祖)。子の胤貞が幼少のため後見人で叔父の胤宗は、自分の跡目の千葉介を息子胤貞に決定する。これがもとで胤貞が長じて従兄弟の胤胤と長く争うこととなる。

九州胤胤は千葉城を攻め、胤胤は千田荘(多古)を攻める戦いの中で、胤胤軍が海路、鹿島海から木下河岸近辺經由で援軍が持ち帰った古鐘を成田船形近くで胤胤軍と衝突した際紛失したのではないか。もう一案は胤胤の館がこの地にあり、肥前国要

職で出向いた胤胤子孫が古鐘を入手し、尊敬する亡き胤胤の館に献上したものが栄枯盛衰を経て埋没してしまった。これらを裏付けることは台方の超林寺にある胤胤板碑(1351年建立)からも、胤胤は領民から慕われた武将のようである。その鐘が650年もの間、成田の地に埋もれていたとは・・・』

この鐘を発見した人達が前述の相京次氏を会長に、沖田善三郎氏を副会長として5年後の昭和52年1月「酒々井町郷土研究会」を発足させたのです。以来35年、先輩の偉業と意志を受け、われわれ後輩は国史跡本佐倉城跡を中心に町の歴史、史跡など研究し、普及して行きたいと思えます。しかしながら、手を洗っていて泥まみれの無残な鐘を見逃さない先輩たちの眼力はすごいの一語であり、また、千葉介胤胤もこの辺りに館を設けていたことを思うと千葉氏への親しみも増してまいります。なお超林寺は岩橋輔胤が孝胤の対面灌戦勝を祈願して1578年建立し、胤胤碑を移設した。

「本佐倉城跡周辺の 史跡と自然」回顧録(二)

本佐倉城跡周辺の 神社・寺院

寺本恵美 桂啓子 浅香征子

酒々井町には現在、寺院が17ヶ寺(無住寺8ヶ寺を含む)、廃寺が17ヶ寺ある。また、神社が25社あり、数の多さに驚かされる。

特に寺院については千葉氏と深い関わりをもっていたようで、本佐倉地区には廃寺を含め11ヶ寺を数える。経胤寺、吉祥寺、妙胤寺、清光寺、廃寺となつている文殊寺、長勝寺、善龍寺、光徳院、浄真寺、善法院、龍性院などがあつた。私たちは本佐倉城跡周辺の神社・寺院を調べてみました。

《神社》

〔麻賀多神社〕

- ・ 所在 酒々井字内方・下台
- ・ 祭神 わかむすびのみこと 稚産霊命

酒々井町には酒々井地区と下台地区の2社がある。麻賀多神社は印旛沼を中心として近郷、近在で19社、

関係ある駒形(小麻賀多)神社5社を入れると24社となる。祭神はすべて稚産霊命で、五穀を司る農業神であると伝えられている。

「神社辞典」によれば、古代この地方は麻の産地で麻県(まあがた)といわれていたのが転化して麻賀多神社となつたと記されている。

〔八坂神社〕

- ・ 所在 酒々井字上宿

・ 祭神

須佐之男命・伊邪那岐命
酒々井宿の鎮守で江戸時代は牛頭天王社と称し、勝蔵院の支配下にあつた。明治初期の神仏分離により独立し、京都祇園の牛頭天王が八坂神社と改めたのにならつて社名を変更した。通称は「酒々井の天王さま」といわれ、酒々井地区の人々に深く信仰されていた。

〔妙見神社〕

- ・ 所在 本佐倉字根古谷・猿楽場
- ・ 祭神 香々背男命

酒々井町には本佐倉の根古谷と猿楽場(写真)との二社ある。妙見神社は中世千葉氏の氏神として知られて、千葉



氏のあるところ妙見神社あり、妙見神社のあるところ千葉氏の城跡、館跡ありといわれるほど千葉氏との関係が深い。

他に、朝日神社(横町)、大鷲神社(上宿)、神明大神社・浅間神社(向根古谷)、五良神社(外宿)、白山神社(西台)、諏訪神社(城ノ内)、巖島神社(中池)がある。

《寺院》

〔経胤寺〕

- ・ 名称 如意山経胤寺
- ・ 所在 本佐倉字西屋上り
- ・ 宗旨 顕本法華宗
- ・ 本尊 日蓮聖人眞定の十界曼荼羅

康治2年(1143)千葉介5代常胤の開基。当初は真言宗常胤寺と称されていたが、室町時代の大永元年(1521)顕本法華宗に改宗する。江戸時代の元禄元年(1688)寺号を経胤寺と改称した。

〔吉祥寺〕

- ・ 名称 佛母山吉祥寺
- ・ 所在 本佐倉字根古谷696
- ・ 宗旨 真言宗智山派
- ・ 本尊 麻耶夫人

本堂は町指定文化財となっている。

佐倉5ヶ寺の一つであり、古い歴史をもった寺院である。寺伝によると、大同2年(807)弘法大師が巡行のおり、鎮護国家のため摩耶夫人を当地に納めたと伝えられている。文化財として町指定の木造十一面観音立像がある。

【勝蔵院】

- ・名称 處宝山勝蔵院長現寺
- ・所在 酒々井字馬場
- ・本尊 不動明王(写真)

勝蔵院は元、東

台不動山(中央台3丁目)にあったが、元禄12年(1699)、時の佐倉城主、戸田能登守の篤い信仰心によって現在地に寄進建立されたものである。佐倉七牧の捕馬では幕府用人の宿舎となるなど、酒々井町の歴史で重要な役割を果たしてきた寺である。



また「赤門」と称される仁王門があり、一對の金剛力士像(仁王様)が寺を守っている。本堂及び本尊の木造不動明王坐像、それぞれ町指定文化財となっている。

【円福院】

- ・名称 酒々井山円福院神宮寺
- ・所在 酒々井字馬場
- ・宗旨 真言宗智山派(吉祥寺末寺)
- ・本尊 阿弥陀如来

酒々井の地名の起源となったという「酒の井」伝説(6ページ参照)のあるこの場所には、「円福院」という寺があった所である。現在はその面影はないが「神宮寺」という寺号を持ち、麻賀多神社を支配していた。

【清光寺】

- ・名称 亀沢山清光寺
- ・所在 上本佐倉字清光寺作
- ・宗旨 浄土宗
- ・本尊 阿弥陀如来立像

及び両脇侍立像

開山は弘治2年(1556)、月峰上人と伝えられている。境内には徳川家康の父広忠公の歯骨墓があり、このため徳川幕府から庇護を受けていた。本尊である銅像阿弥陀如来立像及び両脇侍立像は県指定文化財となっている。

【妙胤寺】

- ・名称 常勝山妙胤寺
- ・所在 本佐倉字猿楽場
- ・宗旨 日蓮宗

・本尊 釈迦牟尼仏

開山は正安元年(1299)、日祐上人(千葉胤貞の子で中山法華経寺三世)と伝えられている。創建当初は大蛇村(佐倉市)にあって真言宗弥勒院と称した。大蔵坊法印が住職の時、日祐上人と三日三晩問答(討論)して日蓮宗に改宗した。

【東光寺】

- ・名称 大廣山密蔵院東光寺
- ・所在 酒々井字横町
- ・宗旨 真言宗豊山派
- ・本尊 胎蔵界大日如来

鎌倉時代の康元2年(1257)知恩院の俊誉上人の開基とされ、佐倉5ヶ寺の一つである。明治22年(1889)酒々井町が誕生した時、最初の町議会が本堂で開かれた歴史的な寺院でもある。境内には寛文13年(1673)の石造大日如来供養塔と正徳元年(1711)石造庚申塔の2基が町指定文化財となっている。

【光徳院】

本佐倉字寺坂にあり、佐倉市大佐倉にある曹洞宗勝胤寺の末寺で、かつては大きな寺であったと伝わる。本佐倉城内に在る千葉氏所縁の寺である。

「名勝探訪」

お台場方面散策記

近藤信子

先週末の長雨もやみ、久しぶりの晴天に恵まれて絶好の行楽日和となった3月14日。参加者30名は京成酒々井駅より1時間20分ほどで新橋駅に到着。ここから「ゆりかもめ」に乗り換えて芝浦ふ頭で下車。途中ゆりかもめの車窓に広がる海の風景は、さながら遠足気分である。徒歩5分ほどでレインボーブリッジ遊歩道専用入口に到着。

レインボーブリッジは平成4年に開通した芝浦ふ頭とお台場を結ぶ、東京湾に架けられた美しい吊り橋である。一般道の両サイドには遊歩道があり、ノースルートは晴海方面、サウスルートはお台場方面がよく見え、片道約1.7キロ、約30分の絶景散策スポットとなっている。海上を歩いて渡れるとは・・・。私たちはサウスルートを歩き、まもなくして眼下にお台場が見えてきた。

現在、お台場といえばレインボーブリッジによって結ばれる埋立地一帯を指しているが、かつてここには

東京湾海防拠点の一部である「品川台場」があった。江戸幕府はペリーの率いる4隻の黒船が来航（1853）したことをきっかけに、海防策の一環として台場を急ぎ建設した品川沖の砲台のことである。

初めに見える「第6台場」は自然のまま残され、やがて見える「第3台場」は公園として整備され、陸地より渡れるようになっていた。当時5つの台場が作られたが、現在残されているのは2つのみとなっている。次の見学先はフジテレビである。

ここで自由解散となり、私たちは最上階の展望台に興味があったので行くことにした。お天気も最高で、展望台からの眺めは二つのお台場、東京タワー、話題のスカイツリーと、都会の人工美が眼下に広がる風景は自然美と違った感動があり、しばしうっとり・・・。

レインボーブリッジを歩いて渡り、幕末の砲台跡を見ながら現代へタイムスリップと、貴重で楽しい一日を体験しました。



行徳「寺町」巡り

進藤浩一

当初の計画は6月6日に行く予定であったが、雨で代替日の8日となった。参加者20名は、京成酒々井駅から途中船橋駅でJRに乗り換え、東西線の妙典駅に到着。ここで「市川案内人の会」の石田さんが待っていて概略のコース説明がなされた。まず、寺町通りを行くと、この道は無電柱化による歩道整備が進み、スッキリした町並みになっている。

最初の徳願寺は執事の方から寺の歴史について説明があった。埼玉県にあった勝願寺の末寺で、徳川家康の「徳」と勝願寺の「願」の二字をとって改めて徳願寺の名が付けられた浄土宗のお寺。広い敷地に山門、鐘楼、本堂等の立派な建物と手入れの行き届いた庭があり説明と見学に多くの時間がさかれた。

次に権現道という幅2メートル余の細い道で、ここは昔徳川家康が東金で鷹狩りをする際にここを通過して船橋へ向かったと言われている。

この道沿いに寺が多くあり、キリシタン灯笼のある妙覚寺、地元の人

から塩場寺と呼ばれている法善寺等を見て行徳街道へ出る。

歴史的な建造物である塩問屋の「加藤邸」、「笹屋うどん」跡があり、現在は営業していないが往時の繁栄が偲ばれる。

旧江戸川沿いには成田参詣客の航路の安全祈願のため建てられた常夜灯(写真)が歴史の一部として残されており、その周辺は公園として整備されていた。



2時間半の散策を終え、行徳駅前で案内人の方にお礼を言い、岡田会長の挨拶で自由解散となり、各自昼食をとり帰宅した。

行徳・妙典は寺町として発展し、信仰とは切っても切れない関係にあり、多くの寺があるというのは今回行って初めて知った。また製塩と水運により栄えた町で、今は埋め立てが行われ東西線が走るようになって趣を一変させており、寺町の静かな街並みと駅前の賑やかさの両面を見ることができ楽しい時間であった。

『町内史跡めぐり』

「双体道祖神を訪ねて」

船津晴樹

以前、町の講座(酒々井学)で3か所の双体道祖神は見たことがありましたが、今回は柏木と下岩橋の双体道祖神を案内していただけたのと、日頃の運動不足解消を兼ねて、家内と参加しました。

参加者40名は7つのグループに分かれ、郷土研究会のリーダーに要所要所での説明を受けながら散策。菜の花、桜、木蓮、芝桜などの花を愛でながら、やや寒い空気の中を歩くのはとても気持ちが良いものでした。

宗吾参道駅前を出発し、大仏頂寺に。ここは一度訪ねてみたいと思っていたお寺でした。平安時代の大同2年(807)創建の真言宗の由緒ある寺で、寺宝は古鐸・舌出しの鈴で、毎年2月の御影供で見ることが出来ます。密教の仏具で弘法大師空海上人が唐より持ち帰ったとか。

その後、柏木、下岩橋、上郷(写真)、中川、新堀の双体道祖神を見ることができました。男女が寄り添う姿の比較的小さな丸彫りの石像で、男の

像の片手が女の像の肩に、男像は杖を持っていて片足しかない様で、夫婦仲良く労わりあう姿に見えました。ガイドさんの話によると謎も多いか。関東甲信越の5県に偏在していること、千葉県では酒々井が9体と突出していること、神様が人間の格好をしていること、なぜ足が3本しか彫られていないか等々。

道祖神は村の境に置かれ、疫病や悪いものが入ってくるのを防御する役割を担っていたようです。江戸時代中期のものが多くとか。素直に考えると子孫繁栄、無病息災、夫婦和合等、現代の神社の効能書ではないですが、ムラ共同体信仰祭祀の対象であったと思えますが・・・。

新堀では如意輪観音像と子安像塔の隣に双体道祖神がありました。また、大師堂もセットであり、他とは違いがありました。柏木、下岩橋は庚申塔とセットでした。

日本人の多神教性、神仏習合性、宗教世俗性のルーツを見るようでした。また、次の歴史ウォークに参加したいです。楽しい4時間でした。



酒々井の伝説

「お話その4」

酒の井 井戸福院

昔むかし、後冷泉天皇の天喜年間（1053〜8）の頃、この地に年老いた父母と貧しいけれど大変親孝行な息子が住んでいました。父親はお酒が大好きでしたので、親思いの息子は朝から晩まで一生懸命働いて、貰ったお金でお酒を買って帰り、父親の喜ぶ顔を見るのを楽しみしていました。

ところがある日、お酒を買うお金がどうしてもつくれず、父親を喜ばせることができなことを嘆きながら帰ってくる、道の傍らの井戸から「ぶうん」とお酒の匂いがしてきました。不思議に思っ飲んで見ると、どうしたことでしよう、本当のお酒です。大喜びで汲んで帰り父親に飲ませました。父親は「これはうまい酒だ。ありがたい、ありがたい。」とたいそう喜びました。それから毎日、この井戸から汲んだお酒で父親を喜ばせ、孝行することができました。

このことを伝え聞いた人たちは、孝行息子の真心が天に通じたのに違いないとほめたたえ、この井戸を「酒の

井」と呼ぶようになりました。そして、記念に井戸のそばに碑を建て、村の名も「酒々井」と改めたということです。『印旛郡誌』より

※これに似たお話は酒々井の近くでは栄町酒直、佐倉市直弥などにもあり、また全国各地にもありますが、少しずつ違ったところがあります。

大きく分けると、

① 孝行息子が酒の湧く井戸や清水を見つければ、父親（あるいは母親）に飲ませるといふもの（養老伝説）、

② 酒好きの父親が、酒を買うお金もないのに毎日酔って帰ります。不思議に思った息子があとをつけて清水を飲んでいい気持ちになつていきます。ところが息子が飲んでもただの水だったといふもの（子は清水・強清水）に分けられます。

①では岐阜県の「養老の滝」の話がよく知られていますが、酒々井の話もこれに含まれます。

②には栄町や佐倉、山梨県上九一色村の話などがあります。



観察メモ

オトギリソウ（弟切草）

オトギリソウ



日当たりの良い山地や田あぜに自生。高さ30〜60センチ。葉は対生・長さ3〜6センチで透かして見ると黒い油点がある。花期は7〜8月で、花径2センチの黄色の5弁花で、一日でしぼむ。止血や鎮痛に役立つ薬草として知られています。

名前の由来は、ある鷹匠の兄弟がいて、この草を傷ついた鷹の治療のための秘伝の薬として使っていました。ある時、それを弟が口外してしまい、立腹した兄が弟を斬ったという古い伝説によるものです。（野草部）

『郷土史講座』のご案内

「佐倉城下、酒々井宿の繁栄」

講師 酒々井町教育委員会

木内達彦氏

日時 8月19日 (日)

午後1時30分～

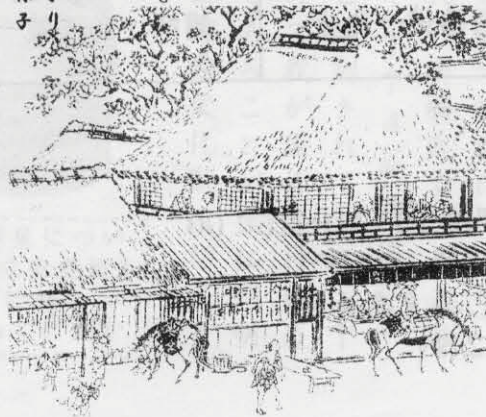
会場 中央公民館研修室

酒々井町は北総の中心にあり戦国時代から江戸時代まで城下町、宿場町、幕府野馬会所の地として繁栄していました。

今回は、酒々井宿の名残りにス

ポットを
あて、往
時の様相
を資料と
スライド
でお話し
していた
だきます。

成田参詣記より
酒々井宿の様子



見学

案内

名勝探訪

両国方面

9月12日 (水)

小雨決行 (荒天中止)

ねずみ小僧の墓のある回向院、討ち入りの吉良邸を散策し、江戸東京博物館に行きます。9月23日まで二条城展があります。

すので、京都に行った気分
で、見てきたいと思えます。

また、この日は大相撲の本場所が行われており、ひいきの力士に会えるかもしれませぬ。一日のんびりしましょう。

☆ ☆ ☆

暑中お見舞い

申しあげます



あとがき

★5月に予定した宿泊見学会(茨城方面)は予定人員に達しなかつたので、非常に残念ですが中止いたしました。

★厳しい夏がやってきます。熱中症予防のため水分補給を怠らず、ゴーヤでも植えて涼しくするのも一つの案ですが、くれぐれもお体を大切に

★8月予定の郷土史講座は興味を抱くようなテーマです。お友達等お誘いの上ご参加ください。

郷土研日誌 (抜粋)

月日	内容	参加者
24.3.28	会報144号印刷	6
3.30	会報144号発送	15
4.11	双体道祖神巡り下見	11
4.12	「酒々井町の歴史」講師派遣	1
4.15	町内史跡巡り(双体道祖神)	47
4.17	町文化協会理事会	1
4.18	「酒々井町の自然観察」講師派遣	2
4.19	野草観察会下見	4
4.24	野草観察会(墨方面)	35
4.26	タウンレッジ「野草観察」講師派遣	2
5.7	野草部城跡観察	2
5.10	町文化協会総会	2
5.29	運営委員会	17
5.31	会報編集会議	5
6.2	史談会	25
6.7	会報編集会議	6
6.8	名勝探訪「寺町巡り」	20
6.15	会報編集会議	6
6.21	会報編集会議	6

郷土研行事案内

平成24年7月～9月

史談会	7月 7日(土) 13:30 中央公民館会議室 「中世の佐倉」⑧ 講師：高橋健一先生	8月 4日(土) 13:30 中央公民館会議室 「中世の佐倉」⑨ 講師：高橋健一先生	9月 1日(土) 13:30 中央公民館会議室 「中世の佐倉」⑩ 講師：高橋健一先生
郷土史講座	<p>「佐倉城下、酒々井宿の繁栄」</p> <p>8月19日(日) 開演 13:30～15:00 (開場 13:00)</p> <p>講師 木内達彦氏 (酒々井町教育委員会) 会場 中央公民館 研修室(2階) 後援 酒々井町教育委員会 酒々井町文化協会</p>		
名勝探訪	<p>「两国方面・江戸東京博物館」</p> <p>9月12日(水) 雨天決行(荒天中止) 当日問合せ 7:00～7:30 寺本(496-1379)まで 集合時刻・場所 8:10 JR酒々井駅 階上改札口前 参加費 100円(交通費・入場料など各自負担)</p> <p>コース JR酒々井駅—錦糸町駅—两国駅…回向院…吉良邸跡 …江戸東京博物館(解散・自由昼食)</p>		
秋の野草 観察会	<p>「墨方面・総合公園」</p> <p>9月24日(月) 雨天中止(小雨決行) 当日の問合せ 8:20～8:50 犬島 まで</p> <p>集合時刻・場所 9:25(9:30出発) 中央公民館前 参加費(資料代) 200円 弁当、飲み物、敷物等各自持参(昼食は野外を予定しています) 14:00頃現地解散予定(総合公園)</p> <p>春の観察会(前回)とほぼ同じコースを観察する予定ですが、野草の生育状況により一部変更する場合があります 春に観察した植物がどんな姿に変化しているのでしょうか? また、秋は、どんな植物に出会えるのでしょうか・・・お楽しみに・・・</p>		